

ハイセイコー涙の鼻差

—菊花賞—

第34回菊花賞は11月11日京都競馬場に9万のファンを集めて行われました。栄光のゴールにハナをきってとびこむのは一番人気の怪物ハイセイコーか、ダービー馬タケホープか、それとも関西の雄ホウシュウエイトか。出走馬は東西の精鋭15頭、距離3000メートル。

ハイセイコーは三番手につけて先行、ホウシュウエイト、タケホープもハイセイコーをマークするように好位につきました。レースはスローペースで3コーナーへ。ここでハイセイコーは先頭に立って逃げきりをはかれ、外からタケホープも末足をのばして、直線は激しいデッドヒート。2頭ハナ差らずをそろえてゴール。写真判定の結果1着はタケホープ、ハイセイコーはハナ差の2着に泣きました。

僅か3分14秒に98億円が乱れとんだ乱菊もタケホープが二冠馬となって幕を閉じました。

追いつめられたゴミ戦争

杉並区高井戸町。東京都がここにゴミ焼却工場の建設予定を決めて7年。その間、地元反対派住民は、ゴミ焼却工場は公害の元凶を理由に地域エゴ、住民エゴとののしられても、反対の態度をくずそうとはしなかった。その間東京のゴミ戦争は悪化の一方をたどり、江東区議会は、これ以上江東区民が犠牲になる事は許せないと都に最後通告を提出。11月5日ついに美濃部都知事は地元反対派住民に用地提供についてYESかNOをせました。

内藤反対同盟委員長——話し合いを続けている最中に結論は出せない。

美濃部都知事——杉並区民にとっても都民にとっても残念だ。

対話路線はついに決裂。

美濃部都知事は11月7日、46年12月から凍結していた収用委員会の裁決手続き再開を発表。力で臨む姿勢に踏みきった。その足で江東区議会に出向き、その旨を伝えると共に、清掃車のゴミ搬入実力阻止を思いとどまるよう要請した。しかし区議会の全員協議会では質問が殺到。

『一步前進と思えるが、百歩後退に等しい。江東区民の迷惑は何ら変わらない。』と不満をぶちまけた。

江東区塩浜町。ここを毎日3500台ものゴミ清掃車が往復する。新夢の島への通り道だ。

ある主婦は『ゴミの自区内処理の原則を貫いてもらいたい。毎日毎日、数えきれない位の清掃車が通り、あぶなくしてしまうがない。それにくさいし……。』

杉並区民は、今ゴミの自区内処理の原則を杉並区内で力の対決によらない平和的解決の道で貫くことを考えようと、杉並区民ゴミ問題コン談会を開いた。しかしこれといった名案は出ない。

この11月いっぱい新夢の島も満パイになる。48年12月からは、更に、新たな埋立地に移るという。しかしそこも51年には満パイの予定だ。

東京都が昭和51年をメドにしていた可燃ゴミの全量焼却も夢に終りそうな気配。東京のゴミ戦争はますます困難な闘いになってきた。